

## 3

生産拠点の適正なマネジメントで、  
確かなモノづくりと  
幅広い信頼獲得をめざす

## | OKIグループの生産活動

経済のグローバル化が加速し、企業間競争が激化するなか、企業が継続的に成長・発展していくためには、新しい製品や技術開発、それに伴う新しい価値の提供が不可欠になっています。OKIグループもメカトロニクス、情報と通信の融合などの技術を強みに、ATMやプリンタ、社会のインフラを支える各種システムを開発し、お客様に提供してきました。これらのモノづくりを支えるのは、高密度実装、高速試験、高精度加工などの高度な生産技術であり、最適な生産管理です。

OKIグループでは現在、国内およびタイ、中国、英国で生産活動を行っており、グループ全体の生産技術の底上げと、緻密な生産管理の浸透に努めています。また、こうした製造基盤を用いて、基板や装置を中心とした設計・製造を受託するEMS (Electronics Manufacturing Service) 事業を展開し、お客様にトータルな生産ソリューションを提供しています。

| マネジメントシステムの構築と  
適切な運用

モノづくりに取り組む現場では、製品の厳格な品質管理はもちろんのこと、生産活動に伴う環境負荷の低減や、製造現場で働く社員の労働安全衛生などに確実に取り組むことが重要です。OKIグループでは、「OKIグループ企業行動憲章」にこれらの項目を掲げるとともに、着実に遂行するためのマネジメントシステムを構築・運用しています。

品質に関しては、事業部門およびグループ各社に品質保証部門を設けて品質保証活動に取り組んでいます。またすべて

● OKIグループの主な海外生産拠点



の生産拠点でISO9001の認証を取得し、生産ラインや製品特性にあわせた最適な品質管理体制を構築しています (p24参照)。環境については、ビジネステーマおよびサイトテーマについてグループ全体で統合的なマネジメントシステムを構築して、効率的な環境活動を推進しています (p34参照)。また労働安全に関しては、生産拠点ごとに労使で構成する「安全衛生委員会」を設置して日常的に管理しています (p30参照)。

これらはサプライチェーンを通じたCSR推進の上でも不可欠な要素であることから、グローバルなCSR調達の要求事項を反映した調査フォーマットを作成し、グループ拠点への適用も開始しています (p21参照)。

| 操業する国や地域に貢献できる  
存在になるために

企業活動のグローバル化に伴い、OKIグループも市場や生産拠点を海外に拡大してきました。現在、量産品の生産はタイと中国の工場が担っています。これらの海外生産拠点においては、お客様のご要望にお応えできるモノづくりを国内と同様に推進することはもちろん、操業している地域の発展に貢献する、責任ある企業経営が望まれます。

OKIグループでは、こうした認識に基づき、海外生産を開始した当初から、単なる経済的なメリットの追求ではない、操業する国や地域との信頼関係につながる拠点運営をめざしてきました。現地ベンダーや社員と一体となって生産技術の向上や緻密な生産管理の浸透に努めた成果として、近年では現地社員を主体とした生産改革など、地域に根付いた生産拠点マネジメントが各地で実践されています。また社員が業務を通じて得た技能を社会に役立ててもらえるよう、IT教育、語学教育、認定取得などを推進しています。

OKIグループはまた、国内外の各拠点において、地域の皆様とのコミュニケーションや地域社会への貢献活動にも積極的に取り組んでいます (p32、33参照)。今後もこれらの活動を通じて、操業する国や地域との良好な関係を構築していきます。

## お客様と地域に密着し、信頼される企業へ

日本・長野県

長野県小諸市にある長野OKIは、2009年に創業40周年を迎えました。1993年からはEMS事業を立ち上げ、OKI製品の生産・開発拠点として培った設計・製造技術、さらにはOKIグループの広範な開発体制に支えられる実装技術開発力などを活かして、お客様の受託生産を行っています。



最新鋭のシステムを生産に導入

EMSを手がける工場として、ISO9001やISO14001の認証取得はもちろんのこと、お客様が定めた品質システムの認定なども積極的に取得。また、グリーン調達推進や、省エネルギー・鉛フリーといった環境配慮を取り入れた設計の提案を通じて、お客様のエコブランドづくりへの貢献もめざしています。

長野OKIはまた、長年小諸市で操業する企業として、地域社会への貢献にも積極的に取り組んでいます。OKIが

2005年に小諸市と締結した「森林(もり)の里親協定」に基づいて浅間山麓の森林整備に取り組み、これまでの5年間で、計10回の活動に延べ388名のグループ社員や家族が参加。その活動面積は東京ドーム1個分に相当する4.5haに及び、2010年2月には同協定の5年間延長を決定しました。

このほか善光寺御開帳を記念した「布引伝説ウォーキング2009」に協賛、参加者の案内や昼食の提供などに社員がボランティア協力するなど、長野地域ならではの貢献活動を通じて、地域の皆様との信頼関係構築に努めています。



社員の家族も森林整備のボランティア活動に参加



ウォーキング参加者にカレーライスサービス

## 現地の社員や生産パートナーとともに大きく成長

中国・江蘇省

日沖電子科技(昆山)有限公司(以下、OKN)は、PCの一大生産拠点として知られる中国江蘇省昆山市で、2004年にキーボード



照光式キーボード(バックライト点灯時)

の生産を開始しました。世界トップクラスの軽量・薄型という強みをもつOKIのキーボードは、2008年度には軽量薄型機種の世界シェア50%に到達、OKNで生産したキーボードも2009年11月には累計2,000万台を突破しています。

地元PCメーカーをはじめとするパートナー企業の協力を得て業容を拡大してきたOKNですが、その過程においては、日本、中国はもとより韓国、台湾などさまざまな出自の社員



キーボードの生産ライン

が働く現場ならではの、マネジメント上の試行錯誤がありました。文化や慣習の違いから生じる誤解を解消するため、生産現場では生産計画や生産状況、品質データなどの掲示による「目で見てわかる管理」を進めています。また日本人技術者による現地の若手への技術教育においては、設計デザインレビューの意義など、表面的な技術に留まらない、

きめ細かな指導を行ってきました。さらに2009年度からは、社員の要望をうけて、日本語を話せる現地社員による日本語教室を開催。100名を超す受講希望者があり、日常会話も話せる現地社員が増えて、コミュニケーションの活性化に役立っています。

また、環境についても取り組みを強化しています。2008年2月にはOKIグループの環境ISO統合認証範囲に加わり、マネジメントレベルの向上とともに、要請の強まる製品含有化学物質管理について、各国規制への適合性などを的確に確認できる体制を整えました。



設計・生産共同で問題解決に取り組む現地技術者

創業当初、技術力は評価されても生産工場としての実力がお客様の要求レベルに達していないことを実感する場面もありましたが、現在ではお客様から品質モデルラインとしての評価を受けるまでになりました。また中国人技術者も、バックライト機能や堅牢性などを備えた高付加価値商品の技術開発を牽引するまでに成長しています。設立時30名だった社員は400名近くに増え、協業する現地パートナーは35社に上ります。真に中国に根ざした企業として、世界No.1商品の創出に取り組んでいます。